

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	P01
プログラム名称	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	高原 明生	プログラムコーディネーター	城山 英明

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、これまでの留意事項に適切に対応して外国人教員を増員するとともに、当初計画を超える取組として、学生主導プロジェクト（SIP）や英語で行う優れたコースワークプログラムを構築した点は高く評価できる。特に、学生の自主的なセミナーや学生と教員の意見交換を行うインタラクティブ・イブニング・ラウンジ（IEL）、並びに学生委員会と特任教員の合同会議が、学生の学修成果や要望を教育にフィードバックする場となっている点は、本事業の一つのモデルケースになると考えられる。また、当初計画を超えて本プログラムで使用するテキストを作成したことも評価できる。なお、応募者については、採択年度より一貫して2倍前後の合格倍率を確保し、日本人応募者の約6割が自大学出身者で推移している。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、修了者の多くが国際性、俯瞰力、チームマネジメント力、基礎的素養などプログラムが狙いとしてきた多くの項目について成長したと認識していることや、工学系の航空やエネルギー、医学系の公衆衛生など政策と関わりが深い分野を研究する学生が増加していることは評価できる。なお、半数弱を占める留学生修了者の大半が出身国に帰国せずに、日本を含む出身国以外の機関・企業等に就職している。令和元(2019)年11月時点の日本人を含む修了者全体では、約6割が大学・研究機関に就職し、民間企業・国際機関に就職した者は約4割であるが、参画専攻における本プログラム修了者以外の学生と比べると就職先は多様化している。国際機関の多くが応募の際に職務経験を求めることから、今後、次のステップとして国際機関を目指す修了者が増加することを期待する。

事業の定着・発展については、支援期間終了後も、本プログラムは、「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム 2.0 (GSDM2.0)」として、基幹科目を従来と同様のプログラムである GSDM において継続するとともに、新たな履修証プログラムとしての GSDM certificate においては必修又は選択必修科目として継続し、公共政策大学院博士課程に新設する科学技術政策コース、国際卓越大学院 (WINGS) の創設などにより幅広い学生に対してプログラムを提供することは評価できる。